



日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

博多の歴史家 しらこま ひとみ **白駒妃登美**



# 日本一の悪妻といわれて

——家族愛に生き抜いた日野富子

## ＊本当に悪女ですか？

源頼朝の妻・北条政子、秀吉の側室・淀殿、そして日野富子……日本三大悪女の中でも、富子の評判はおそらくワースト1でしょう。室町幕府第八代將軍・足利義政あしかがよしまさの正室として幕政に介入し、空前絶後の内乱「応仁の乱」のきっかけを作り、さらに窮乏する民を尻目に、商才を発揮して莫大な遺産を築いたのですから。

けれども私は、そんな富子をどうしても憎む気にはなれないのです。

妻として母としての富子は、私たち現代女性と共通するような問題を抱えていて、その対処の仕方が実にまずく、富子が歴史という舞台でリアルな反面教師を演じてくれたように感じられるからです。

時に理解されがたい彼女の行動の裏には、常に家族への深い愛情がありました。

## ＊家族愛が裏目に——

富子は、足利將軍家と縁戚関係を持つ日野家の出身。十六歳の時に四歳上の義政に嫁ぎますが、驚いたのは、すでに夫には側室が何人もいたこと。なかでも今参局という年上の美女を寵愛する義政は、何でも彼女の言いなりでした。

ただ救いは、どの側室も男子を授かっていなかったこと。富子は何か何でも世継を産んで、一発逆転を狙いたところ。四年後、ついに待望の男子が生まれました。ところどころが——。その子は翌日、あっけなく亡くなってしまいます。やがてその死は、

日野富子(1440-1496) 室町幕府8代將軍足利義政の正室にして、9代將軍・義尚の母。

【イメージイラスト】  
アオジマイコ